

重点項目（3ヵ年計画 2022～2024年度）

1. 2020年度の事故事件及び2021年度の対応を踏まえた泉苑再編成の年とする
2. 利用者の権利尊重を最優先に、法令を遵守し、財務的にも健全な施設運営を行う
3. 職員一人一人が力をつけ、その力を発揮できる組織になっている
4. 「困りそうなら泉苑に相談。」地域の高齢者やご家族の相談に応えられる施設

1. 2020年度の事故事件及び2021年度の対応を踏まえた泉苑再編成の年とする

- (1) 特養実利用数90名を維持するため、実利用者92名在籍での事業運営をする
- (3) 居室移動・利用者グルーピングを進め、ゆとりある環境で利用者の生活を支援する
- (4) 新たな医療機関との連携体制の下、利用者が安心して生活できるシステムを作っていく
- (5) 入浴設備を改修し、入浴介助業務を根本的に見直すことでくつろげる入浴を目指す
- (6) 事故発生時の対応・再発防止策の後追い検証を体系化し、適切に記録を残す。
- (7) 事故の再発防止に向けた取り組みにより事故を50%削減する(1事故:検証→対策→実施→確認)

2. 利用者の権利尊重を最優先に、法令を遵守し、財務的にも健全な施設運営を行う

- (1) その方らしい暮らしの実現に向け、ケアプラン立案への本人・家族の参画を進める。
- (2) 加算取得はサービスの質の証であることを意識し、新規加算取得に積極的に取り組む
- (3) 泉苑で勤務する全ての職員に人格尊重義務があることを再確認し、日々の業務を行う。
- (4) 法人版倫理綱領に基づく倫理研修を行い、利用者の権利尊重を大切に出来る組織を作る。
- (5) 高齢者虐待防止研修を定例実施し、権利擁護意識を常に持ち続けられる組織を作る。
- (6) 部署ごとの特性に合わせた独自の虐待の芽チェックを継続して行い、改善につなげる。
- (7) スピーディーな入所に向け、特養待機者への先行訪問調査を進める。(ストック2名)
- (8) 災害・感染対策のBCPに基づいた訓練を実施し、BCMへの取り組みを進める。
- (9) 防災設備の図示化・災害発生時の対応内容明文化により、災害に対応出来る力をつける。
- (10) 「自分の家だったら？」職員一人一人がコスト意識を強く持ち、省エネルギー、節約に励む。
- (11) 「介護分野における生産性向上」を意識し、業務を整理し、サービスの質の向上を目指す
- (12) 健全な施設運営のため、収入と支出の推移を常にチェックする意識を持ち、実践する
- (13) 業務の見直しにより、適正な業務分担と効率化を進め、超過勤務を減少させる

3. 職員一人一人が力をつけ、その力を発揮できる組織になっている

- (1) 研修に動画等の映像資料を活用し、時間帯の制約なく学習効果の高い受講が出来るようにする。
- (2) 面接等を活用し、職員一人一人が自分の将来イメージを描き、そこに進んでいける育成を行う。
- (3) OJTにて記録の正確性の向上と充実、記録から課題を導き出すアセスメント力を強化する。
- (4) 変化を逃さないようケアカルテ記録入力について再整理を行い、ケアマネジメントに活用する
- (5) 必要な方に必要な介護機器がマッチングできるよう、マネジメントスキルを高める。

4. 「困りそうなら泉苑に相談。」地域の高齢者やご家族の相談に応えられる施設

- (1) 複合的課題を抱えた事例を経営会議で共有し、泉苑全体で地域の現状の理解を進める。
- (2) 近隣学校等との交流事業再開・ボランティア受け入れルール明確化で地域とつながる
- (3) むさこいまつりを継続する。武蔵台連絡会を活性化させ、しらとりとの連携を進める。
- (4) 食のニーズの実態調査結果から地域に向けた新たな展開を検討し、いずみ食堂の再開も目指す。
- (5) 新たな福祉エリアへの対応について、地域の混乱を招かないよう丁寧に行う。